

2025.7.14

報道関係者 各位

<配信枚数 3 枚>

「英語が苦手な AI」に英語を教えるプロジェクト 公開授業開催 ～私学で唯一「AI 活用による英語教育強化事業」に採択！～

日時：7 月 17 日(木)10 時 35 分～11 時 25 分

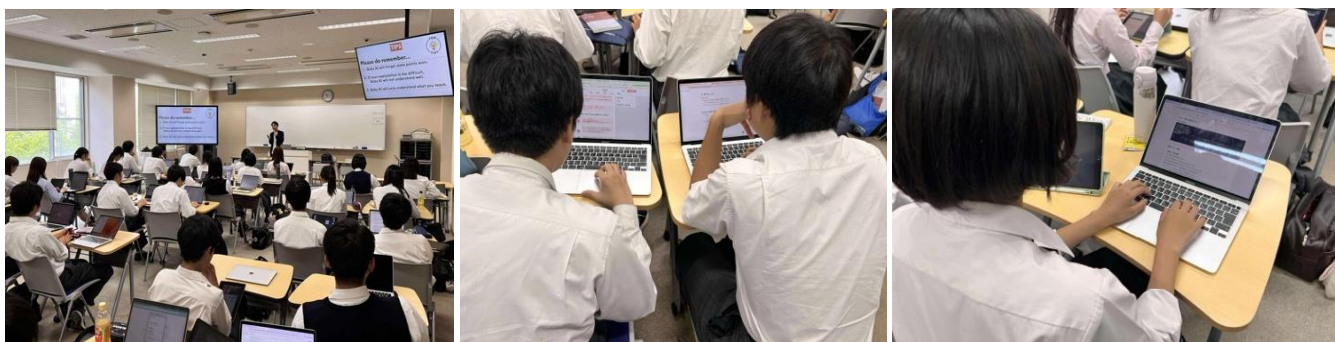
場所：立命館守山中学校・高等学校

立命館守山高等学校(所在地:滋賀県守山市、校長:岩崎 成寿)は、立命館大学が独自に開発した生成 AI アプリ「育てる AI」を活用する新たな AI 英語教育プロジェクトに取り組んでいます。その一環として、7 月 17 日(木)に公開授業を実施します。

本プロジェクトは、グローバルサイエンスコース(GLs)の 3 年生を中心とした約 40 人が参加。英語科目において、「育てる AI」を英語が苦手なクラスメイトに見立て、英文法など自らの知識を AI に教えることで、他者への説明力の向上を目指します。

本取り 組みの ポイント

- ・文科省「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」に私学として唯一モデル校に採択
- ・立命館大学が独自に開発した「育てる AI」を高等学校の授業で活用
- ・生成 AI を「答えやヒントを教える道具」から、「理解度を確認・説明力向上」ツールとして活用



【プロジェクトの様子(7 月 3 日立命館大学びわこ・くさつキャンパス)】

記

日時：2025 年 7 月 17 日(木) 10 時 35 分～11 時 25 分

※10 時 00 分よりメディア向け説明会を行います

場所：立命館守山中学校・高等学校 (滋賀県守山市三宅町 250)

内容：立命館大学独自生成 AI「育てる AI」を活用した英語授業

講師：立命館大学 生命科学部 教授 山中司

受講者：立命館守山高校グローバルサイエンスコース(GLs)3 年生 約 40 人

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、文部科学記者会

●取り組みについてのお問い合わせ先

立命館守山中学校・高等学校 担当:山内

TEL:077-582-8000 Email:yuma-y@mrc.ritsumei.ac.jp

●取材・報道についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当:覚(かく)

TEL:075-813-8300 Email:r-koho@st.ritsumei.ac.jp

※ご取材頂ける場合は、7/16(水)15 時までにご一報ください。

別紙

【プロジェクトについて】

教育現場における生成 AI は、従来、知識の確認や文章生成など「答えやヒントを得るツール」として活用されてきました。これに対し、本学は立命館大学生命科学部 山中司教授らが独自に開発した「育てる AI」を教材として活用しています。この「育てる AI」は、生徒が英文法について自分の言葉でプロンプトを入力(教える)すると、AI がその説明をもとに課題を解き、さらに説明の正確性について評価、フィードバックを返します。この新しいプロセスにより、生徒は知識の正確性を確認できるだけでなく、論理的で分かりやすい説明力も身に付けることができます。

さらに今後は、生徒が教えた内容を一定期間後に忘れたり、急激に理解が深まるなど、あたかも本物の人間を育てているかのような体験が得られる機能拡張を図り、学習効果のさらなる向上を追求します。

TEACH (教える内容を入力)

テキストで教える：

関係副詞とは、名詞（先行詞）を修飾する節を導く語で、節の中では「副詞」の役割を果たしながら、全体としては形容詞句のように先行詞を説明する働きをします。最もよく使われるのは where（場所）、when（時間）、why（理由）の3語で、まれに how（方法）が挙げられます。

たとえば This is the café where we first met. という文では、where we first met が「私たちが初めて会った」という場所情報を補足し、直前の the café を詳しく説明しています。節の内部で where は副詞として「そこで」という意味を担い、同時に節全体が形容詞句になって café を修飾しているわけです。

同様に、I'll never forget the day when I passed the exam. では、when I passed the exam が先行詞 the day を限定し、試験に合格した「その日」を特定します。関係副詞 when も節の中で「そのときに」という意味を持ちながら、節全体で名詞を説明しています。

AI採点システムで採点中...

採点結果

正答数: 6/12 (50%)

詳細結果

○ 問題1

AI回答: えっと、Do you remember the day... あ、これは「その日を覚えていてる？」だよな。で、when we first met in Sydney... whenは「時間」に関係するから、「シドニーで初めて会った時」ってことかな。うーん、たぶん「シドニーで初めて会った時」を覚えてる？」かな？ あれ、なんか聞き覚えがない？ まあ、たぶんこれでいいかな。

後継解答: シドニーで初めて会った日を覚えていますか？

解説: 生徒は「when」が時間に関係すると理解しており、文脈から「シドニーで初めて会った時」という意味で捉えている。これは教えられる範囲内であり、意味も通じるため正解。

【プロンプト入力（例）】

【フィードバック（例）】

また、本プロジェクトは、文部科学省の令和 6 年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」において、46 件の採択事業のうち、私立学校として唯一採択されました。本プログラムのアドバイザーは「プロジェクト発信型英語プログラム」(PEP)を展開する立命館大学生命科学部の山中司教授が担い、技術面では一般社団法人インパクトラボ(所在地:滋賀県草津市 代表理事:上田隼也)の協力を得て取り組み、本学における一貫教育、産学連携プロジェクトとして展開しています。

◆「プロジェクト発信型英語プログラム(Project-based English Program, PEP)」

2008 年 4 月から生命科学部・薬学部への導入を皮切りに、スポーツ健康科学部(2010 年)、総合心理学部(2016 年)と広がりました。1 回生から個人またはチームでテーマを設定し、調査・実験に取り組み、英語でプレゼンテーションを行います。3 回生には、英語でプロジェクトを組み、伝えたいことを英語で伝え、コミュニケーションができるまでに成長するなど、学生が自ら学び協働的課題解決力を育むプログラムです。最近では、立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)第 4 期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム「記号創発システム科学創成:実世界人工知能と次世代共生社会の学術融合研究拠点」においてメタバースや生成 AI など先端技術を活用した英語教育にも率先して取り組んでいます。

◆文部科学省令和 6 年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

文部科学省が小学校から高等学校までの英語教育の一貫性を図り、生徒の英語力向上を目指す事業。特に「話すこと」「書くこと」の能力向上に焦点を当て、AI を活用した新しい教育モデルの構築と、実践による知見の蓄積や普及を目指します。

■参考

- 立命館守山中学校・高等学校「文部科学省「AI 活用による英語教育強化事業採択」」
<https://www.mrc.ritsumei.ac.jp/2025/05/01/post-182267/>
- 「プロジェクト発信型英語プログラム(Project-based English Program, PEP)」
<http://pep-rg.jp/>
- 立命館大学生命科学部 山中司教授 生成 AI 活用実績
<https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=3156>
<https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=3518>

「AIに教える」という逆転の発想！
教え方を工夫し、自身の学びを深めます

立命館守山中学校・高等学校

育てるAI

公開授業

日時

2025年 7月17日 木 10:35-11:25

場所

立命館守山中学校・高等学校 3号館2階 H3-8教室(3208)

この度、立命館大学 生命科学部 山中司教授らが独自に開発した「育てるAI」を、立命館守山中学校・高等学校の授業に活用した公開授業を実施します。本プロジェクトは「英語が苦手なクラスメイトに見立てた生成AI」に、生徒が先生役となり自身が持つ英語の知識(特に、英文法)を教える体験を通じて、自らの理解度を把握し説明力を高めることを目指します。文部科学省「英語教育強化事業」に採択されたAI英語活用リーダーの授業をご見学いただけます。

育てるAIとは？

教えることで、学びが深まる

「育てるAI」とは、AIを“知識がまだ十分ではない学びのパートナー”と見立て、生徒がAIに英語を教えることで、理解を深める新しい学習プログラムです。

他者に教えることは、学習者にとって能動的で、理解の定着に繋がる学びの方法であり、その学びのプロセスをAIを通じて再現しました。

通常のAIはあらかじめ多くの知識を持っていますが、「育てるAI」はあえて知識を限定し、生徒が教えた内容をもとに答えるように設計されています。

生徒はそのフィードバックから自身の理解度を把握し、学び足りない部分を補うことができます。

一般的な教育用AI

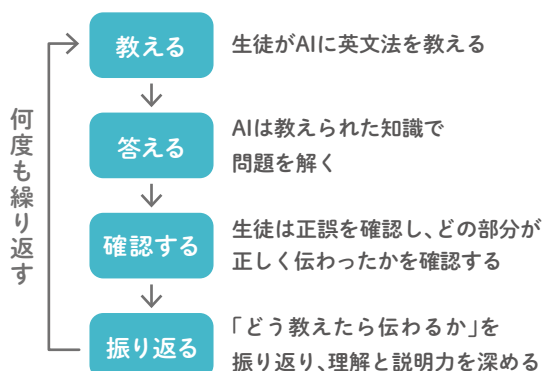
生徒に答えを教えずぎないう
ガードレール(制限)を設ける

“ヒントを教えてくれる道具”

育てるAI

生徒からの知識をガードレール
にして、答えを出力する

“自分の理解度のチェッカー”



立命館守山中学校・高等学校は、文部科学省令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」(AIの活用による英語教育強化事業/AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)に採択されました。文部科学省が小学校から高等学校までの英語教育の一貫性を図り、生徒の英語力向上を目指す事業。特に「話すこと」「書くこと」の能力向上に焦点を当て、AIを活用した新しい教育モデルの構築と、実践による知見の蓄積や普及を目指すものです。



AI英語活用リーダー
山内 優馬(英語教諭)



アドバイザー
山中 司(生命科学部 教授)

お問い合わせ

立命館守山中学校・高等学校 (山内)

077-582-8000